

ほっとハート



命の誕生

〇〇〇〇

今年の2月、助産師さんが5年生と6年生に「命の授業」をしてくださいました。命の誕生から赤ちゃんが生まれるまでの家族の気持ちや願いに触れ、一人一人感じるものがたくさんありました。感想を紹介します。

「自分やクラスみんながいるのは、お母さんが陣痛を経験してこうして生きていることだとわかった。しっかりと感謝したいです。」

「お母さんお父さんから授かったたった一つの命なので大切にしたい。一人一人にもっと優しくしたいし、いじめをしない、許さない。」

「子供を産むときはとても痛そうだったけれど、産んだ後は嬉しくなることがわかった。」

「生まれた時の産声に感動した。生まれて初めての声だから。」

「お父さんやお母さんと暮らしていく中で、大切にされていると何度も感じています。」

「人はつながって生きていることもわかりました。」

自分が生まれた時のこと、命の大切さや家族のことについて真剣に考え、素直な気持ちが伝わってきました。とても心が温かくなりました。みんな、家族や多くの人達からたくさんの愛情を受けて成長しているんですね。

私が印象に残ったのは出産のシーンです。家族が「がんばれ、がんばれ」と応援する中、お母さんが無事に出産。赤ちゃんも頑張りました。大きく響く赤ちゃんの産声。赤ちゃんの顔を囲んで、家族中が笑顔と涙でいっぱいになる様子が流れました。

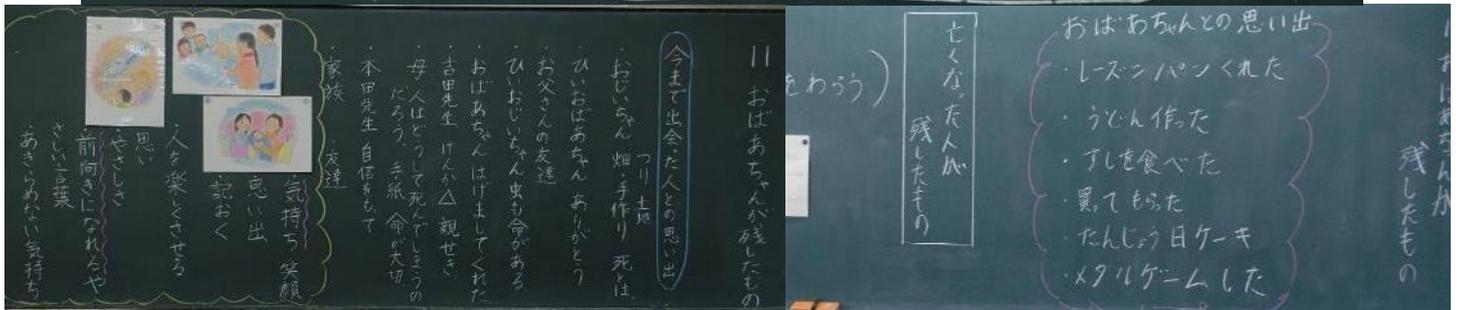
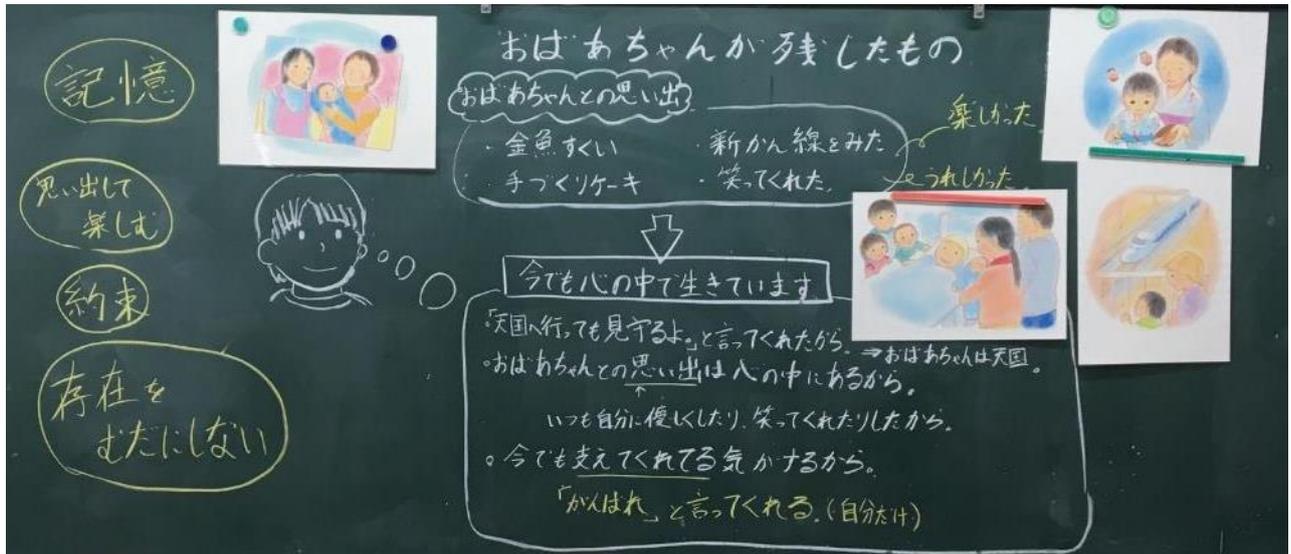
ずいぶん前のことですが、私も自分が出産した時のことを思い出し、目頭が熱くなりました。長男が生まれ、抱きかかえた時の温かさ。しばらく私の目を見つめ、「よろしくね。」と言っているような様子。「生まれてきてくれてありがとう。こちらこそよろしくね。」と、うれしさと共に親としての責任を感じたことを覚えています。

「生まれる」ということは当たり前なのですが、生まれたくても叶わなかった命もあります。この世に生まれたのは奇跡ともいえることなのだと改めて感じました。

私たちは、たくさんの人との関わりの中で今を生きています。これからも自分を大切に周りの人も大切に、家族仲良く過ごしてほしいと願っています。素敵な心温まるお話をしていただいた助産師さんにも感謝しています。

各学年の実践より 今回は、5年生の授業を紹介します。

「おばあちゃんが残したものの」(生命の尊さ)



○あらすじ

「ぼく」はおばあちゃんの死という悲しい出来事を経験するが、おばあちゃんの存在が心の中に残っていることを実感している。おばあちゃんと過ごしたことを思い返すだけで、幸せな気持ちになれた。それだけでなく、つらいときには心の中でおばあちゃんが励ましてくれる。「ぼく」の心の中でおばあちゃんは、ほかの人に楽しさをあげるという目標になって生きていたのであった。

○ねらい

つながりの中にある生命を感じ、かけがえのない生命を尊重し大切にしようとする心情を育てる。

○人とのつながりを考え、「生命の尊さ」について振り返りました。児童の「振り返りカード」から一部を紹介します。

- 私のひいおばあちゃんは私が生まれる前になくなってしまったけど、よくおばあちゃんが、ひいおばあちゃんの話をしてくれて、ひいおばあちゃん存在はみんなに残ってるんだと、授業をふまえて思いました。
- 亡くなってしまった人が残したものを大切に守りたいと思いました。理由は、残してくれたものを大切にしないと亡くなってしまった人も悲しむし、大切にしたら自分もいい人になれると思ったから。
- この授業を通して思ったことはたった一つの命を無駄にはいけないということです。私はもし、大切な人がなくなっても、その人を忘れずにその人の分も長生きする！
- 身近な人が死んでしまうととても悲しい気持ちになります。でも、その人が残してくれたもの。そのすべてをむだにせず、大切にしていきたいなと思いました。
- 命は大切。身近な人が死んでしまったとしても忘れたら楽しい思い出も全部なくなってしまうから、わすれちゃダメ。その人の分まで生きなければいけない。